

A

Y

A

G

A

W

A

綾川町町勢要覧

綾川

幸せの風がふいている



幸せの風が ふいている

「水源の森百選」に選ばれた溪谷には、
涼やかな風が吹いている。
ため池を渡る風は、
ふとなつかしい思い出を運ぶ。
降り立った電車の駅では、
風が花の香りを届けてくれた。
ここは、幸せの風が吹くまち。
綾川の川面に、幸せの風が吹き抜ける。
心真っ直ぐな人々が、大地の恵みを育てている。
心温かな人々が、伝統の技を伝えている。
心やさしい人々が、ともにしっかりと支えあう。
わたしのふるさと綾川。
心寄せ合う人々のまち。
綾川の川面に、幸せの明かりがゆれている。





- 3 位置・地勢・交通アクセス
- 5 歴史概要・町のシンボルなど

自然と歴史が輝くまち
幸せの原風景

- 7 花の里
- 9 綾川の輝き
- 11 田園賛歌



幸せの系譜

- 13 古墳と須恵器の謎を訪ねて
- 15 偉大な足跡
- 17 こんぴら街道とお田植祭

地域ぐるみで育む魅力

幸せづくり

- 19 さぬきうどんの里
- 21 大地の恵みを生かすまち
- 23 綾川の技を生かす



あやがわちょう*しあわせプロジェクト

- 25 **あ**たたかく育み健康を守るまち【子育て・保健・医療】
- 27 **や**さしさと思いやりで助け合うまち【福祉】
- 29 **が**んばろう住みやすい安全なまち【生活基盤・安全】
- 31 **わ**たしが守る自然豊かな環境のまち【環境】
- 33 **ち**せい(知性)を育て文化を育む交流のまち【教育・文化・スポーツ】
- 35 **よ**ろこびあふれる産業のまち【農林業・商工業・観光】
- 37 **う**れしい絆で創りあげるまち【住民参画・コミュニティ・行財政など】

- 39 幸せづくりメッセージ
- 41 しあわせマップ・イベントカレンダー



かがわの真ん中 さぬきを代表する風景

四国は香川県のほぼ真ん中に位置する綾川町。町域は109.67 km²。北と東は県都である高松市、西は城とうちわのまちで知られる丸亀市、南と西は満濃池で有名なまんのう町、北は瀬戸大橋の基点である坂出市にそれぞれ接しています。

その名前は、町のなかほどを流れる“綾川”から名付けられ、川の流れを中心に柏原溪谷をはじめ緑と水の風景が広がっています。町の南には、豊かな自然を抱く讃岐山脈が控え、北に広がる平野部は、讃岐らしいぼっこりとした小山に囲まれています。なかでも讃岐七富士に数えられる堤山つつまやま(羽床富士)、たかはちやま高鉢山(綾上富士)の姿は美しく、また北條池、大谷池や永富池をはじめとしたため池が小山の姿を映して数多く点在しています。

ここに広がる風景は、小山や里山、ため池のたたずまい、すべてが讃岐らしさを詩ううたのどかなもの。穏やかで心優しく、人々の心を安らかに癒すふるさとの姿です。どこにでもあるようで、ここにしかない幸せの風景に出会える綾川町です。







1 2
3 4



川の流れに 幸せのまちづくり

その昔から綾川を中心に文化が栄えてきた綾川町。先土器・縄文時代の石器も出土するなど、その歴史は深く、律令時代には阿野郡に含まれていました。奈良時代から鎌倉時代にかけては、窯業の中心地として栄え、陶という地名や百近い窯跡が残されています。江戸時代には、多くのため池が造られて稲作が盛んに行われ、山田郷では高松藩の御倉に租米を直納していたほど、良質の米どころとして知られていました。

明治23年(1890年)市町村制の施行で、山田村、粉所村、羽床上村、西分村、滝宮村、羽床村、陶村、千疋村、畑田村が誕生。その後、昭和になって、千疋村と畑田村が合併して昭和村になり、昭和28年に公布された町村合併促進法に基づき、昭和29年(1954年)に昭和、陶、滝宮、羽床の4カ村が合併して綾南町が発足しました。また、山田、羽床上、粉所、西分の4カ村が合併して綾上村が発足し、昭和37年(1962年)に綾上町となりました。

そして、平成18年(2006年)3月21日、綾上町と綾南町が合併して綾川町が誕生。深い歴史に支えられた綾川町は、21世紀に大きく育つふるさととして歩み始めました。人々が力を合わせ創り上げる幸せのまち。綾川の流れるように、心うるおす笑顔と夢を忘れないまちづくりのスタートでした。



町章

綾川(ayagawa)町の頭文字である「a」に「川」の流れを組み合わせたものです。アルファベットが若々しさを、「川」の文字がこの町の由来(起源)を忘れないでもらいたいという願いを表現し、旧2町で成り立つことを意味しています。



町花「水仙」

別名は春の訪れを告げる「雪中花」。高貴な香りが、さわやかな綾川町の姿を象徴します。西分地区にある水仙ロードは花の名所として知られ、早春には多くの人々が訪れています。道沿いに連なる花のように、手を携えた人々が築く、明るく温かい「綾川町」です。



町木「梅」

「東風吹かば匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」と歌われた菅公ゆかりの梅は、綾川町の滝宮天満宮で変わらぬ春の香りを届けます。学問の神様ゆかりの梅は、歴史ある教育の町「綾川町」を象徴し、かぐわしい歴史の香りに人々は希望の春を見出します。

- 1 かつては米と麦の二毛作が大半。6月20日ころから大勢の人の手による田植え風景があちこちで見られました。
- 2 昭和53年、大宮八幡神社湯立神楽。
- 3 昭和20年代の運動会風景。
- 4 昭和30年代、子供会奉仕活動に汗を流しました。





自然と歴史が輝くまち

幸せの原風景 花の里

人をなぐさめ、心をやさしくするのは、自然と人が寄り添うふるさとの姿。

ここで育ち、季節の風に吹かれることで、気づいていく幸せの意味。

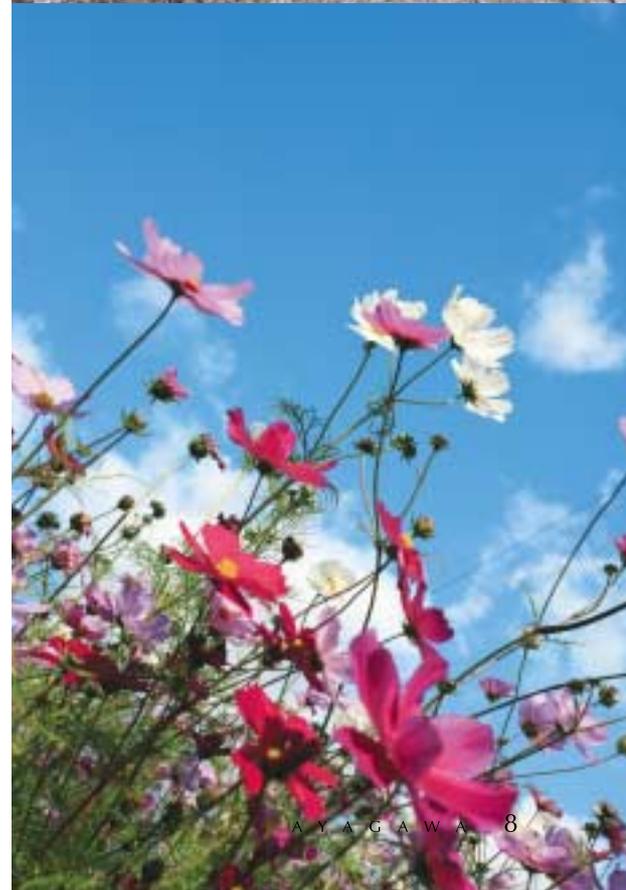
ここには、人々が真心込めて育てた花の風景があります。

働き者の人々が守ってきた里山の風景があります。

電車の駅に降り立って、そぞろ歩く花の道。朝夕たどる丘の道。

広々とした車の道にも花を植え、人々は綾川町を誇ります。

花の里、綾川町。幸せの原風景にお帰りなさい。





自然と歴史が輝くまち

幸せの原風景

綾川の輝き



柏原溪谷キャンプ村「Tatutaの森」

柏原溪谷の清流と戯れるには最適のキャンプ村。
暖炉のあるコテージは、紅葉の秋や雪降る冬も森と川の風景を楽しめます。



綾川の流れば命を育み、大地の実りをもたらし、
はるかな時を超えて、文化を運んできました。
川が流れるふるさとの姿は、水の尊さを知り、
助け合う心を大切に、この地で生きてきた先人の姿に重なります。
溪谷の清流を集め、まちをゆったりと下る綾川。
心までうるおしてくれた綾川は、
ふるさとの象徴として町の名前となりました。
心に刻まれる「綾川」。
未来へと幸せをつなぐ、希望の流れとなりますように。

鮎の養殖

まちの象徴である綾川の清流を生き、鮎の養殖も行われています。こうした綾川の生態系を守り育てるために淡水魚研究会も作られ、稚魚の放流などの活動が行われています。





自然と歴史が輝くまち

幸せの原風景

田園賛歌





土を耕しひたむきに生きてきた人々、
この地の幸せの原点は誠実に働くことです。
自然を尊び、命を愛し、人を思いやり、
互いの幸せを願って歩んできた綾川町です。
ここには、自然と人との美しい調和があります。
感謝をしながら暮らしを築くやさしさがあります。
もう一度、この風景から幸せを築きましょう。
協働の心で、未来のために幸せのまちを創りましょう。
風も土も水も人々を癒やす綾川町。
どこにでもあろうと、ここにしかない幸せの原風景。



高鉢山キャンプ場

きれいな円錐型をした高鉢山（海拔512m）にあるキャンプ場。バンガロー5棟、管理棟、炊事棟、テントサイトなどが整備されています。

高鉢山風穴

高鉢山の中腹にある風穴は、日本3大風穴の1つに数えられる大変貴重なもの。岩のすき間からの涼風によって、真夏でも10℃～12℃の温度に保たれています。





自然と歴史が輝くまち

幸せの系譜

古墳と須恵器の 謎を訪ねて



すえ のり 末則古墳群のひみつ

おそらく綾川のほとりから歴史がはじまったこの地。陶の西川遺跡や牛川からは翼状ブレード(つばさのような切り込みがある石ナイフ)が出土していることから、縄文時代以前から人が住んでいたと推測されています。

綾川沿いの盆地には、数多くの古墳群が残されています。その中の一つ、「末則古墳群」は、末則出水がわき出る山田下にあり、7基の円墳が確認されています。5世紀後半から末ころの築造で、石室からは、鉄剣や鉄刀、鉄

鏃^{そく}という鉄製のやじりが出土し、周辺からは埴輪なども出土しています。この古墳の特徴は、ピット(穴やくぼみ)があることで、土器やサヌカイト片、多量の炭化した米が出てきました。これらのことから、弥生時代には、ここで人が住んでいたと考えられています。

また、同じ古墳の場所から中世鎌倉時代の墳墓が発見されています。弥生、古墳、鎌倉時代と人々の足跡がしっかりと残されている末則古墳群です。

日本史初期の産業地帯？

綾川町の陶にある、十瓶山や火ノ山からは、その昔、おびただしい煙が上がっていたといわれています。その煙は「須恵器」を焼く窯の煙で、その様子から火ノ山と名付けられたとも伝えられています。その証拠に、この周辺には多くの窯跡が残されていました。調査されただけでも100基、推測では200基もの窯が築かれていたそうです。その窯で焼かれていたのが「須恵器」。古墳時代中期の5世紀に朝鮮半島から日本に伝わり、平安時代まで使われていた素焼きの土器です。それまでの土器に比べて高温で焼くために、それに耐えら

れる良質な粘土や大量の燃料となる樹木が必要でした。その粘土と樹木が周辺には豊富にあり、綾川を使つての水運が可能であったので、西日本最大規模の窯業地帯へと育つていったのです。

最も盛んであったのは8世紀ころ。この時期は、県内各地の須恵器産地での生産が減少してきたころといわれ、現在でいう産業の集積地が誕生しはじめたようです。つまり、日本史の中でも初期の工人集落がここに築かれたのです。そこで、須恵器とかかわりのある「陶^{すえ}」という地名が残されています。



すべつと窯跡

陶の窯跡は、大半が洪積層台地の間に造られていましたが、これは細長い谷の斜面に造られている珍しい窯跡と言われています。現在は綾川町総合運動公園の中にあります。



末則古墳群

主体部の石室は竪穴式。綾川の石と思われる河原石が積み上げられていました。



岡の御堂古墳

須恵器や土師(はじ)器などが出土し、この地域の有力豪族の墓と推測されるのが岡の御堂古墳。5世紀末から6世紀初頭に埋葬されたもので、短甲とよばれる鉄製のよろいをはじめ多くの武具が発見されました。それらは大変貴重な物で、「ふるさと資料館」に保管されています。

溪谷を行くお大師様

柏原溪谷の清流に架かる赤い橋を渡ると、深い緑に包まれた弘法庵があります。その昔、弘法大師がこの地を訪ね、美しい景色に感動して八十八個の石仏碑を建立したという伝説が残り、今も苔むした石仏が静かに並んでいます。

このあたりには弘法大師にまつわる「柏原五霊所」の話が伝わっています。大師作と伝わる石仏「柏原山六地藏」。その昔、大師が

一夜で建てたお堂があったという「堂処」。大師が石仏の薬師尊を作り安置したと伝えられる「嶺の薬師」。大師が火打ち石を捨てたという「火打坂」。そして、龍の岩屋に大師自身が石像を刻んだという伝説が残る「弘法」です。また、長柄には大師の足跡が残ると伝えられ大師堂がまつられています。



弘法庵

自然と歴史が輝くまち

幸せの系譜 偉大な足跡

学問の神様を慕って

「滝宮天満宮」には、学問の神様として知られる菅原道真がまつられています。道真公は、仁和2年(886年)の春から4年間、讃岐の国司を務めていました。当時の国府は、現在の坂出市府中町のあたりにあり、滝宮には別館があったと伝えられています。それが、ちょうど現在の天満宮のあたりで、もう一つの別館は有岡の松恵天神(お藤天神)でした。ときどきは、綾川の地で美しい山河をながめ心慰めていたことでしょう。

さて、赴任して3年目のこと。讃岐は大変な干ばつに襲われました。「火は夏の日を焼きて

地は煙を生ず」ほどで、神主たちが懸命に祈っても効果がありませんでした。

そこで、道真公自らが城山きやまの神に七日七夜、祈り続けたのでした。すると、三日三晩大雨が降り続き、人々は救われました。このときの喜びがはじまりだとも、延喜3年(903年)に太宰府で亡くなった道真公を忍んで踊るようになったとも伝えられているのが「滝宮念仏踊」です。

また、後にこの踊りを見て、法然上人が振り付けを行い、念仏を唱えながら踊るように教えたとも伝えられています。



法師の帽子?

仁安3年(1168年)には、西行法師が崇徳上皇をしのんで、讃岐にやってきたと伝えられています。羽床上には、西行法師が休んだので「休法師」が「安帽子」となったといわれる地名があり、帽子のようなものをかぶった西行法師の石像があります。

火を吹く女人伝説

法然上人は、承元2年(1207年)に讃岐の国に配流(はいり)になりました。綾川町にも、法然上人にまつわる伝説が残されています。昭和地区には、火を吹いて空を飛ぶ女人を、上人様が封じ込めたという経塚があります。



行基菩薩の寺

天平時代、行基菩薩が開基したと伝えられる法道寺。寺室の本尊は、鎌倉時代初期に作られたという地藏菩薩像。檜の一木造で国の重要文化財に指定されています。

滝宮神社





滝宮念仏踊



滝宮天満宮

大嘗祭に選ばれた米どころ

その年の新米を天皇自らが神々にまつる大礼を「新嘗祭」。そして、天皇が即位後にはじめて行われる新嘗祭を「大嘗祭」といいます。古くから行われていた行事ですが、明治になって制定された皇室典範に基づいて最初に行われたのは大正4年（1915年）のことでした。このときに、お供えする米を育てる田を齋田^{さいでん}といい、東日本

から選ばれる悠紀^{ゆき}と西日本から選ばれる主基^{すき}があります。この主基齋田に、当時の山田村の田が選ばれたのです。このことを記念して、その田は史跡として残され主基齋田碑が建てられています。また、保存会のみなさんによって毎年6月に「お田植祭」が行われています。質が良く味が良い綾川の米を物語る史実です。





新道の建設により、今は道のない山影に残された灯籠。

江戸の街道散策

江戸時代、「お伊勢まいり」と「金毘羅まいり」は、庶民の一生に一度の願いといわれ、金毘羅街道には道標や鳥居、灯籠があちこちに建てられ、道が整えられていました。当時の綾川にも、金毘羅街道のにぎわいがありました。一つは現在の高松琴平線（県道282号線）沿い、なかでも滝宮には宿屋やうどん屋が何軒も立ち並んで

いました。もう一つは、安原鮎滝から杵所を通り、羽床に出るこんぴら道。阿波からの旅人も多く通ったこの道にも、道しるべや灯籠がいくつも建てられました。今では狭くなった旧道は、家並みの間や山影にひっそりと残され、あるいは埋もれています。ときには、江戸の街道をたどって、綾川散歩はいかがでしょう。

自然と歴史が輝くまち

幸せの系譜

こんぴら街道とお田植祭



こんぴらどうろう
金毘羅灯籠
と道しるべ

金毘羅まいりや善通寺へと参拝する人が

行き交ったという町内のこんぴら道。道沿いには、今なお各所に金毘羅灯籠や道しるべがたたずんでいます。



永覚寺

明徳7年（1390年）に創建されたという東分の永覚寺。かつては高松藩主の休憩所でもあったというこの寺には、明治12年（1879年）に再建したという立派な石造りの門があります。

うどん発祥の地

綾川町は「うどん発祥の地」として名乗りを上げています。うどんの原型は唐菓子といわれていますが、その唐菓子は延暦23年(804年)に唐に留学した弘法大師・空海によって日本にもたらされたといわれています。そのなかでも「うどん」の源流となるのは「餠餠^{ほうとん}」とか「餠餠^{こんとん}」と呼ばれるもので、その製法は空海の弟子にあたる智泉^{ちせん}に伝承されたと伝えられてきました。

智泉は空海の甥にあたり、延暦8年(789年)に滝宮で生まれました。父は讃岐滝宮の官吏である菅原氏、母は佐伯氏の出身で空海の姉にあたります。つまり、智泉は空海の弟子であり甥でもありました。空海から、「餠餠^{ほうとん}」の作り方を教わった智泉は、帰郷した折りに自ら小麦粉をこねて「餠餠^{ほうとん}」を作り、父母にごちそうしたと伝えられてきたのです。この地では弥生時代から麦が栽培されていたと推測されているので、この「餠餠^{ほうとん}」は瞬く間に広まったとされています。つまり、わが国でいち早くうどんらしきものが作られたのは滝宮周辺であると、この地の人々は信じてきました。

その滝宮に「うどん発祥の地」を記念する道の駅「滝宮」があります。ここには、うどん会館が併設され、予約をすれば“うどんづくり”を体験することができます。また、うどんレストランもあるので、おいしいさぬきうどんを味わうことができます。ここで使われているのは、さぬきう

どんのために誕生した香川県産オリジナル小麦“さぬきの夢2000”。まさに地産地消、綾川自慢のさぬきうどんを味わうことができます。

道の駅の傍らには綾川が流れ、情緒あふれる風景を見せていますが、その昔はこの川の流域に幾つもの水車があり、うどんにするための小麦粉をひいていました。また、こんびら街道に沿っては、何軒ものうどん屋があり味を競っていました。そこで、滝宮公園には当時をしのばせる水車小屋が残されています。そして、今でも綾川エリアは、おいしいうどん店がたくさんあることで知られているのです。



智泉大徳肖像画

綾上支所のほど近くにある「法道寺(真言宗)」には、さぬきの地で最初にうどんを作ったのではといわれる「智泉大徳」の肖像画が伝わっています。



地域ぐるみで育む魅力

幸せづくり

さぬきうどん

うどんの技を伝えて

その昔は、どこの家でもうどんを打つ人がおりました。また行事の度にうどんを打って、うどんの製法を伝えてきましたが、時代の流れのなかで、うどんを打つことも少なくなってしまいました。そこで、「うどん発祥の地」のうどん文化を守りたいと「綾川町さぬきうどん研究会」が活動を続けています。

「綾川町さぬきうどん研究会」は、平成元年にうどんづくりの経験者を中心に20名ほどで出発しました。現在は35名(平成19年度現在)の会員がおり、年に20回以上、会合を行ったり、行事に参加したりしています。主に町内の施設の慰問や、文化祭などの祭りやイベントでうどんを打ったり、学校にうどんづくりを教えに出かけたりしています。ときには、町外からのお客様のために、うどんを打つこともあります。昔は、それぞれの家の味などがあり、ずいぶんとカンに頼ってうどんを打っていましたが、研究会では決まったレシピがあるので、誰でもおいしいさぬきうどんを打つことができます。



うどんづくり

「綾川町さぬきうどん研究会」では、海外からのお客様にもうどん打ちを伝授します。この日は、中国からの修学旅行生にうどんづくりを体験してもらいました。



綾川町うどん会館



うどんアイス

道の駅「滝宮」には、うどんにちなんだ名物もいろいろあります。その一つが「うどんアイス」。うどん発祥の地ならではのユニークなアイスは、味も良く観光客にも大人気。ほかにも「うどんクッキー」や「うどんかりんとう」、「讃岐の夢2000」の小麦粉も置いてあります。



ど

の

里



地域ぐるみで育む魅力

幸せづくり

大地の恵みを 生かすまち

米どころ・麦どころ

綾川の川沿いに広がる美田は、主基齋田に代表されるようにその昔から良質の米の産地として知られていました。また丘陵地では太古より麦がまかれ、昭和40年代ころまでは麦作が盛んに行われていました。命をかけて萱原用水を造った久保太郎右衛門に代表されるように、先人たちは無数のため池を掘り、綾川の水を守り続け、やがて香川用水を引くという水との闘いのなかで、大地を耕し黙々と農業を営んできたのです。その努力のおかげで、綾川は豊かな大地の恵みにあふれ、その実りに支えられて歩んできました。そして、この恵みを大切に農産品を生かして、町の魅力やにぎわいを創り出そうとしています。

実りあふれる綾川の郷

農業の夢あふれる綾川は、富有柿の産地として知られています。大正7年(1918年)に昭和地区で栽培がはじまった柿は、形も味も日本一との評判です。近年には、「太秋」などの新品種にも積極的に取り組み、9月から12月ころまで出荷体制を整えています。

また、ブドウやイチゴなども盛んに栽培され、道の駅「滝宮」には冬から春にイチゴ摘みを体験できる「イチゴ農園」があります。農業加工品の開発も盛んで、柿などを素材にした加工品もさまざまにつくられてきました。



米・麦製品

自慢の米と清流を生かして、綾川流域には古くからの酒蔵があります。江戸のころから続くうまき酒の味を守る蔵では、今年も名杜氏の手によって、全国に名高い銘酒が仕込まれます。今では一つの流行になりましたが、この酒蔵では地元の酒米にこだわり、県産米のみを使ってきました。最近では、県や香川大学、JA香川などの共同研究によって生まれた香川県オリジナル酒造用米「さぬきよいまい」を使った新酒も造られています。町内には、その吟醸酒を使ったスイーツを作る人気菓子店もあります。

また、一方では醸造・発酵の技と現代の科学技術を融合して、米から新素材を引き出すという「日本型バイオ技術」により、さまざまな製品を生

み出している企業もあります。米にこだわる産業は、農業の町綾川町にとって大切に守り育てて行きたい産業の一つです。

麦製品では、地元小麦で作るうどんのほかにも食物繊維が多い「ダングムギ」が見直され、生活研究グループのみなさんの手により「もち麦かりんとう」が誕生し、中四国商工会の特産品コンテストでもグランプリに選ばれました。



イチゴ

町内では、「女峰(によほう)」や香川県オリジナル品種「さぬきひめ」など、多くのイチゴが生産されています。綾川町は香川県で1、2を争うイチゴ生産地です。



綾川のほとりには、寛政2年(1790年)創業の「綾菊(あやきく)酒造」があります。「地元の酒米で仕込んでこそ地酒」の精神のもと、県内で実る良質の酒米にこだわり、現代の名工に選ばれた杜氏(とうじ)を中心にうまき酒を造り続けてきました。



安政元年(1854年)創業の「勇心(ゆうしん)酒造」では、米の総合利用研究に取り組み、当時の厚生省から医薬部外品の有効成分として認可されたライスパワーエキスを開発しました。このエキスをベースに化粧品などがつくられています。

祭りの日に輝く芸の技

これからの地域の魅力は、そこに根付く文化や技。綾川の地には大切に守られてきた芸能や伝統の技がたくさんあります。その昔は、季節ごとに暮らしになじんだ風習があり、さまざまな行事が行われていました。時の流れのなかで、それらの民俗行事は薄れつつあります。しかし、地域の人々の力で魅力的な祭りが各地で受け継がれています。

そうした祭りの芸能のなかで、綾川町で盛んに行われているのが、獅子舞や浦安の舞、神楽

などです。その代表ともいえるのが、国の重要無形民俗文化財に指定されている「滝宮の念仏踊」、そして県指定無形民俗文化財に指定されている「綾南の親子獅子舞」です。

秋祭りが近づくと、綾川のあちこちから「夜鳴らし」の音が聞こえてきます。「夜鳴らし」とは、獅子舞の時に鳴らされる鉦^{かね}や太鼓の練習です。獅子舞の技はなかなか難しく、すぐには教えてもらえないので、最初は太鼓や鉦の練習から始まります。やがて、若いときに獅子の達者な使い手であった年配者が、やさしく時には厳しく、獅子舞のコツを伝授してくれます。豊作の感謝と喜びがあふれる獅子舞。綾川の実りの秋になくしてはならない伝統芸能です。

地域ぐるみで育む魅力

幸せづくり

綾川の技を生かす



親子獅子舞

親子獅子舞を伝えるのは、矢坪獅子組と中筋・万屋獅子組です。写真は、中筋・万屋獅子組。畑田八幡宮の秋祭りで披露されたもので、子獅子を使っているのは子どもたちです。

綾川の技の伝承士

その昔は、なにもかもが自家製。わが家でさまざまなものが作られていました。香川県が認定する「むらの技能伝承士」に、食品加工と玩具づくりで選ばれた吉坂コノブさんは、そんな昔の技を教えてくださいました。かつては、味噌もうどんも自分の家で作り、草履も足袋も自分自身で編んだり縫ったりしていたそうです。子どものおもちゃもおやつも、お母さんの手作り。例えば、女の子にはお手玉、男の子には竹とんぼなどを作っ

てあげました。そんな技を持った高齢者の方々が、まちにはたくさんいて、学校の総合学習の時間などに、子どもたちに作り方を教えてくださいました。

また、公民館活動などでも、自慢の技を持ち合って、ステキな作品が作られています。その作品の一部は、文化祭などで鑑賞することもできます。これからも、さまざまに伝えていきたい綾川の技の数々です。

伝統の技を伝える多くの人々がいる綾川町。

その一部の方に代表としてご登場いただきました。



玩具づくり 吉坂 コノブさん

気に入った手ぬぐいや端切れなどで、合間を見て作っていたというお手玉。「たくさん作ったけれど、ほとんど近所の方などにあげてしまった」と教えてくださいました。ご自身のお子さんは男の子で、小さいころは竹とんぼを作って上げたそうです。また、手先の器用な吉坂さんは、細かい細工でわら草履を模したカラフルな草履のストラップを作っています。吉坂さんのご主人は、思わぬケガで長く寝たさきになってしまいました。そこで、みなさんがいつまでも丈夫で動けるようにと思いを込めて、草履のストラップを贈るそうです。



讃岐装飾瓦 細谷 正雄さん

その昔は陶の地で瓦が盛んに焼かれ、大阪の四天王寺、京都の平安宮や六波羅蜜寺の遺跡からもこの地の古瓦が出土しています。その歴史もあり、昭和30年ころまでは装飾瓦を作る職人さんがたくさん住んでいたそうですが、今では、ほとんど見られなくなってしまいました。そのなかで、貴重な装飾瓦の技を伝えるのが細谷さんです。装飾瓦というのは、神社仏閣や格式ある日本家屋に見られるもので、布袋様や恵比寿様、竜や虎、鶴や鷹（たか）などの意匠を凝らした瓦のこと。商売繁盛、無病息災、子孫繁栄、一家の幸せを願う装飾瓦です。



わら細工 西村 武男さん

わら細工などで「むらの技能伝承士」に認定された西村さんは、自身が稲を育て、わらを大切に残し、それで細工を行います。誰かに教わったというより、子どものころおばあちゃんが作っていたのを見よう見まねで覚えたのだそうです。作品は、定番の草履だけではなく、農作物などを入れて運ぶための「ふご」やお祝いの俵なども見事に編み上げます。西村さんの草履は、何倍も丈夫だと評判で、町内の祭り行列やあの激しく踊る「念仏踊」でも使われています。特に、「マオラン」と呼ばれる植物の葉で編み上げる草履は丈夫さも美しさも特級品と言われています。



すし桶製造 能祖 稜一さん

昔は家庭に必ずあったすし桶や木製のおひつ、最近はあまり見られなくなってしまいました。15歳で修行に出た能祖さんは、国産（奈良・高知・和歌山など）の木材を素材に、すし桶、ご飯などを入れるおひつ、みそだる、風呂桶、風呂のイスなどなど、多くの品を作り出しています。卸を専門に行き名古屋以西に広く販売されてきたそうですが、昔ながらの品が急激に使われなくなってきている危機感を覚え、製品の直売所もオープンしました。能祖さんのすし桶は、

この地に昔から伝わる湯だめうどんにもぴったりです。



綾川町しあわせプロジェクト

あたたかく

育み

健康を

守るまち

ほのぼのラッコ

「えがお」では、1歳までのベビーを対象に親子のふれあいや相談・計測・ベビーマッサージなどを行う「ほのぼのラッコ」、1歳からは集団遊びや親子体操などを行う「すくすく広場」、こども相談やプレイルームの開放が行われています。

綾川町では、一人ひとりの大切な健康生活を守り育てるため、行政と住民がともに力を合わせ、健やかな暮らしづくりのネットワークを築いています。

その拠点となるのが、国保総合保健施設「えがお」と「いきいきセンター」。「えがお」は新しい保健福祉総合センターとして、病後児保育施設「うぐいす」や、訪問看護や介護支援まで、保健福祉のサービスを網羅しています。「いきいきセンター」は介護支援サービスの拠点として「いきいきジム」や「きまいカフェ」のほか、子どもたちのための「わんぱくスタジオ」も備えています。

また、「えがお」の隣には綾川町国民健康保険陶病院、「いきいきセンター」の隣には綾上診療所があり、地域医療の拠点としての役割を担っています。

子育てや健康生活に欠かせない情報については、「広報あやかわ」や「綾川町健康カレンダー」により伝えられ、住む人々の健やかな暮らしを支えています。



ひよこ広場 (パン作り体験)

綾川町立南原児童館では、児童館の児童厚生員を中心に、毎週水曜日と金曜日の午前中に「ひよこ広場」を開催しています。保育所入所前の乳幼児と保護者の方々が自由参加し、季節の行事や手遊びなどで楽しい時間を過ごしています。



綾上診療所
診療施設・検査施設が整備され身近な医療施設として、安心の輪を広げています。



仕合わせコラム

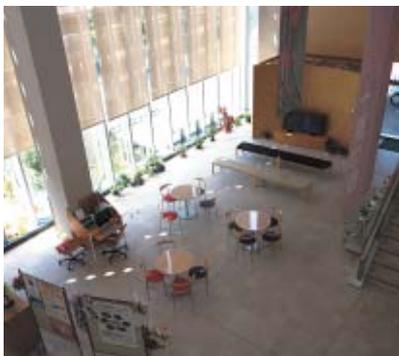
パンダクラブ

綾川町には地域のお母さんが中心になり発足、運営を行っている子育てサークルもあります。お母さんの代表が企画運営を行い、月に一度原則として第1水曜日に「いきいきセンター」で開催されています。直接会場に来れば、誰でも自由に参加することができます。親子でふれあい、自由遊びをしたり、食育を考えたクッキングをしたり、七夕やクリスマスなどの季節行事を楽しんだり、月々に楽しみなメニューが待っています。



綾川町国民健康保険 陶病院

外来、入院での医療とともに、在宅医療、人工透析、スリープセンター（睡眠時無呼吸症候群の診断・治療）などに取り組んでいます。



綾川町国民健康保険 総合保健施設 えがお

病児保育・訪問看護・在宅介護支援まで行う、綾川町の保健・福祉の総合拠点です。



わんぱくスタジオ

「いきいきセンター」では、子どもたちが自由に遊べるわんぱくスタジオや本の読み聞かせを行うお話しルームなどがあります。集団遊びや発達相談をする「とらいあんぐる」などが行われています。



綾川町しあわせプロジェクト

やさしさと

思いやりで

助け合うまち



もみじ温泉

綾川町民の憩いの場として親しまれている「もみじ温泉」。単純弱放射能冷鉱泉で神経痛や筋肉痛、冷え性や関節痛、五十肩、高血圧症、慢性皮膚病などに効果があります。施設には、サウナやトレーニングルームもあり、健康づくりやダイエットに利用する人もいます。

高齢化が進むなかで、老人保健、介護予防などの観点からも住民の健康づくりや支援が行われています。綾川町では、「陶病院」、「えがお」に隣接して介護老人保健施設の建設が予定され、より機能的に高齢者の健康を守る体制を整えています。

また、高齢者の社会参加と生きがいづくりを支援し、いくつになっても不安なく暮らせるよう、行政とボランティアが手を携えて、生きがい支援、就労支援、在宅サービスの支援などを進めています。

これからは地域社会での支えあいが増えます。重要になります。それが行われるような環境づくりに今後とも地域をあげて取り組んでいきます。



料理教室

医食同源という言葉があるように、健康を守る大切な要素である「食」についても、さまざまな教室が開かれます。「フォローアップ講習会」では、管理栄養士の方からお話を伺い、実際に調理体験もします。えがおの「栄養教室」では、栄養のお話と料理講習が行われます。いきいきセンターの「あっぱれ!男の健幸講座」では、男性を対象に健康のための講習や調理実習を行っています。



綾川町では、体力づくりのための教室などが多く開催されています。いきいきセンターの「ヘルスアップ教室」では初心者向けのエアロビクスや太極拳など、週替わりで運動を楽しんでいます。えがおでは初心者向けの「若返り体操」などが行われています。また、総合運動公園では、仕事が終わって参加できる夜に「綾川生き生きウォーク」が開催されています。



社会福祉センター

綾川町には2カ所の社会福祉センターがあり、デイサービスの施設として活用されています。温泉に入ったり、将棋を楽しんだり、体操をしたりと高齢者のふれあい拠点となっています。

仕合わせコラム

老人給食ボランティア

綾川町内では、昭和62年(1987年)から、高齢者への給食サービスが行われてきました。その輪が広がり、今では町内各地でさまざまなグループが給食や配食のサービスを行っています。羽床地区でも月に1回、羽床公民館にメンバーが集まり、高齢者の皆さんに食べやすいように手づくりの料理をつくってきました。出来上がったものは、高齢者だけというお宅の希望者の皆さんに手渡しています。なかには表で待ってくださる方もいて、「毎月の励みになる」と大変喜ばれています。



綾川町しあわせプロジェクト

がんばろう

住みやすい

安全なまち



防災訓練

綾川町では、防災事業の一環として、自主防災組織が結成されています。2007年6月末現在、自主防災会が70組織、1,521の世帯が加入しています。そうした組織の人々も積極的に参加し、毎年秋には、大規模災害を想定し、町民防災訓練を実施しています。

住民にとって住み良いまちづくりのために、綾川町では道路整備、上下水道整備、町営バス運行、公営住宅整備をはじめとする様々な事業を行っています。

また、安全なまちづくりのために、防災対策、安全対策を図り、大規模災害を想定した防災訓練を実施しています。さらに自主防災組織づくりを推進し、災害に強いまちづくりを進めています。



国道32号バイパス

国道32号幹線の複線化事業も進み、地域間を結ぶネットワーク道路の整備は着々と進められてきました。また、府中湖パーキングエリアを利用して、ETC車が高速道路に出入りできるようになり、綾川町での高速道路の利便性が推進されました。



公営住宅

綾川町内には町営住宅があるほか、「綾川町土地開発公社」により宅地の分譲などが行われ、町内での定住を促進しています。



仕合わせコラム

婦人防火クラブ

綾川町は高松西消防署綾川分署の管轄です。そこで婦人防火クラブは、高松のクラブに属し発足しました。消防団は、地域の消防活動が重要な仕事ですが、婦人防火クラブは、“防火活動”を主な目的としています。そこで、防火意識を啓発高揚のための行事や講習会に参加し、身近な火災予防に努めています。また出初め式では簡易ポンプの操作にも参加し、防災訓練では炊き出しなどを行っています。



町営バス

高齢者など、暮らしの足として欠くことができない町営バス。旧綾上と旧綾南エリアのそれぞれのコミュニティバスを統合し、効率的な運行が実現しました。

電車

高松市と琴平を結ぶ電車は、綾川町の重要な公共交通機関です。田園風景の中を走る電車は、綾川町内の5つの駅を通ります。

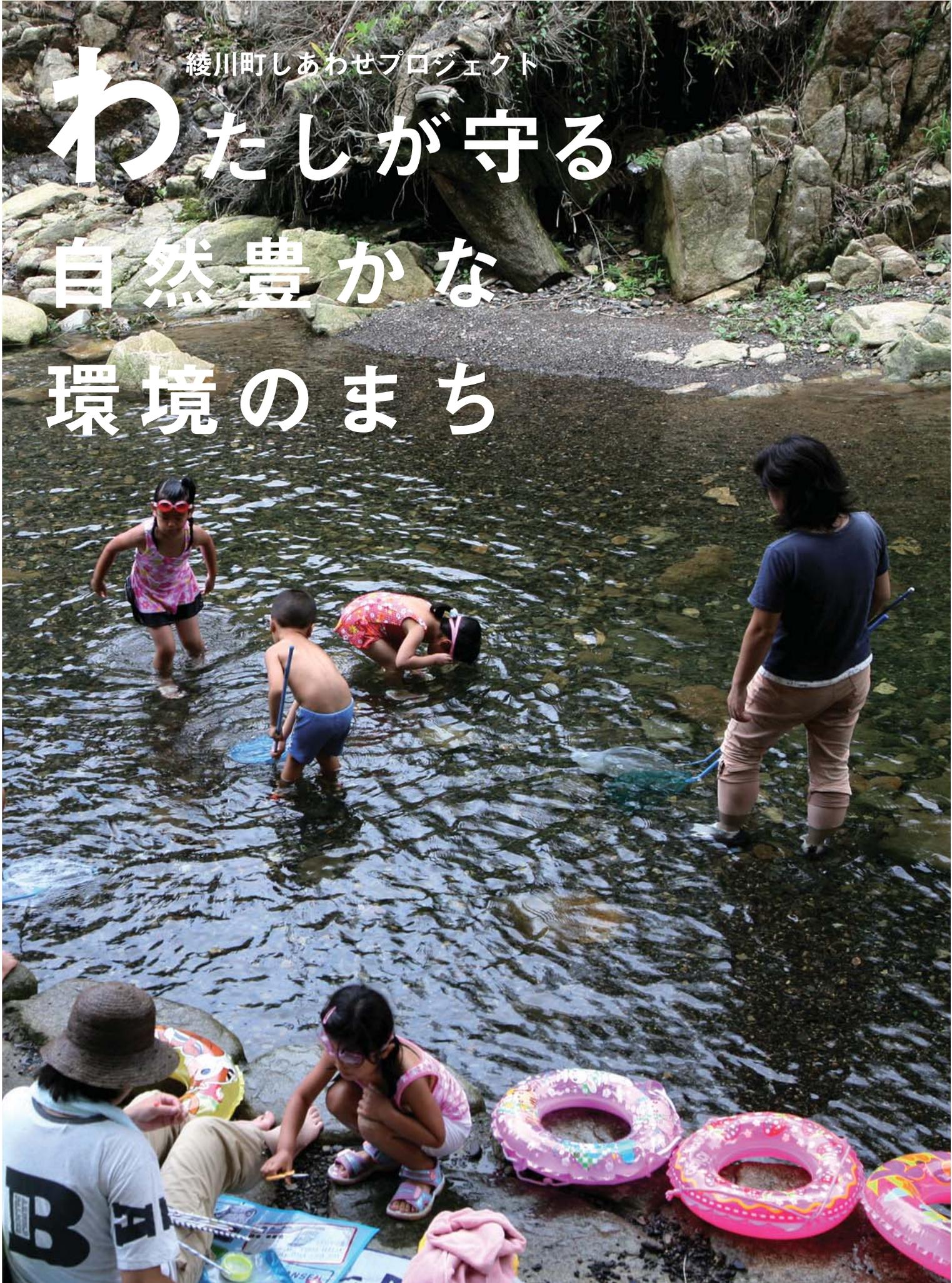


綾川町しあわせプロジェクト

わたしが守る

自然豊かな

環境のまち



綾川町に広がるうるおいあふれる自然風景、田園風景は大切な財産です。それを守るため、綾川町では環境学習・清掃活動・里山保全活動などの環境保全活動を行政と住民が協力して行っています。また、省資源化・リサイクルの推進・ごみ処理の適正化など、循環型社会づくりに向けた取り組みをさらに進めていきます。



里山再生

高齢化などによって、森や竹林などの荒廃が進んでいます。そうした環境を守り生かすために、里山の再生事業が重要です。綾川町では、民間でも「綾川ウッズ」のみなさんが、月に2回、竹林の伐採やピオトープ造りなどに取り組み、その場所を生かして、子どもたちとの交流事業などを行っています。こうした努力が綾川の自然風景を守り、新たな魅力づくりにつながっています。



清掃活動

町内のそれぞれのエリアで、コミュニティ単位や校区ごとなどで、さまざまな清掃活動が行われています。また、年に一度は町民あがての「綾川町クリーン作戦」を実施し、空港周辺市町で行う「高松エアポートクリーン作戦」にも参加しています。



下水道工事

美しい水環境を守るために、下水道整備を進め、そのエリアは飛躍的に拡大しました。また公共下水道事業計画認可区域外では、積極的な合併処理浄化槽設置事業の促進・啓発に取り組んでいます。



「やさしさを育む豊かで心地よい環境づくり」を目指し、綾川町に残る自然豊かな風景を次世代に向けて大切に残していきたいと願っています。



綾川町では山際に足を踏み入れると、季節にはホタルが飛び交う幻想的な風景を見ることができます。

仕合わせコラム

棚田ビレッジ

高齢化と後継者不足によって、急速に荒廃していく農地を再生し、美しい農村環境を守りたいと、平成14年にスタートした「棚田ビレッジ」。第2、第4日曜日を支援日として、棚田などの草刈りをメインに収穫祭などを行っています。地元の人を中心に町内外の人々が力を合わせて作業を行っています。参加者は会費が必要ですが、棚田で収穫した季節の野菜やソバなどを持って帰れるので、おいしい笑顔が広がっています。



綾川町しあわせプロジェクト

ちせいを育て

文化を育む

交流のまち

綾上中学校稲刈り体験

町内には、綾南中学校、綾上中学校の2つの中学校があります。総合学習で、地元の歴史や文化を学び、地元の人々の協力によりさまざまな体験も積んでいます。



綾川町では、多くのスポーツクラブがあり、さまざまなスポーツ教室が開催されています。その場所となるのは、アリーナや陸上競技場、テニスコートなどを備えた「綾川町総合運動公園」、アリーナや野球場などがある「綾川町ふれあい運動公園」、プールがある「綾川町B&G綾上海洋センター」、滝宮にある「綾川町横山農村ひろば」などです。

綾川町では生涯を通じた学び・スポーツの環境づくりを進めています。

未来を支える人づくりにおいては、国際化や高度情報化社会に対応できる指導体制を整えるのはもちろん、それぞれの個性を尊重し、思いやりや郷土愛、考える力を育てる教育を学校・家庭・地域が一体となって進めています。

生涯学習・スポーツの分野においては、「綾川町の社会教育」により目標、方針、施策などの位置づけを行い、充実した生涯学習・社会教育・スポーツ行政を進めています。また、生涯学習の場として、公民館施設などの拠点整備を今後も推進していきます。



綾山湖サイクルロードレース

風光明媚な綾山湖の周囲をめぐる「綾山湖サイクルロードレース」など、スポーツイベントも数多く開催されています。



綾川町放課後児童クラブ

安全で健やかな子どもたちの育成を目指して始められました。児童館や小学校の空き教室などで、主に放課後留守になる家庭の子どもたち（主に小学校低学年）が集まり、指導員のもと、宿題やスポーツ、遊びのひとときを過ごしています。

仕合わせコラム

綾上ジュニアリーダークラブ

子ども会活動の手助けを目的に誕生した「ジュニアリーダー」。綾川町にも「ジュニアリーダークラブ綾上」があり、子ども会を卒業した中学生・高校生のメンバーが活躍しています。キャンプの指導、異世代遊びの会や子ども商店街に参加したり、保育所で劇や紙芝居を上演したり、クリスマスイルミネーション（いきいきセンター前）の飾り付けなどを行っています。世代を超えて、子どもたちの笑顔が広がる活動です。



文化祭

滝宮小学校鼓笛隊

町内には5つの小学校があり、それぞれに地域の特色を生かした学校づくりが行われています。学習面はもちろん、情操面でも豊かな感性を育てる教育が行われています。



十一面観音立像

町の宝である文化財の保存整備も大切にしています。「木造十一面観音立像」は、国指定の重要文化財。滝宮神社の西の御堂に所蔵され、毎年4月17日にご開帳があります。

綾川町しあわせプロジェクト

よろこび あふれる 産業のまち

農業を基幹産業として歩んできた綾川町には、頼もしい農業後継者のグループも育っています。その代表「農業生産法人(有)グリーンフィールド」は、休耕田など、水路や道路など基盤整備が整った耕作地を借り上げ、約40ヘクタールの農地を耕しています。米はコシヒカリとヒノヒカリ、麦はさぬきの夢2000を栽培。ほかにもブロッコリーやキャベツなどを栽培。収穫の手応えがあり、農業のやりがいを実感しているというみなさんです。



綾川町の元気を支えている産業。長く綾川町を支えてきた農業においては、認定農業者など意欲を持って農業に取り組む方への支援及び、魅力ある特産物の栽培・開発・販路拡大への支援を通じ、農業振興を図っていきます。

また、今後の大規模店舗の進出による人、物の流れの変化に対応し、既存の商工業との共存を含む綾川町全体の産業の活性化を見据えた施策を実施していきます。

さらに、綾川町の新たな魅力を生み出すために観光資源の整備・開発を行い、イベントなどを通じて町の魅力を発信していきます。



夏祭り(花火)

町内各地で開催される夏祭りでは、盆踊りやカラオケ大会、商工会などの協力によるバザーや抽選会も行われ、美しい花火が夜空に花開きます。



合鴨農法

米どころとしての歴史を踏まえ、コシヒカリやヒノヒカリのおいしい米がたくさん栽培されています。また農薬や化学肥料を一切使わない合鴨による米づくりも行われています。



産直市

綾川町内には、地産地消の拠点ともいえる産直市が幾つかあり、新鮮な野菜や花々を求める人でにぎわっています。道の駅滝宮にある産直市には、町内でとれた季節の野菜や手作り加工品などが並んでいて、観光客にも喜ばれています。



柿

昭和地区の丸山岡パイロットは香川県でも有数の柿産地。現在は、9月中旬ごろから出荷される西村早生にはじまり、早秋、伊豆、太秋、松本早生富有、そして12月中旬ごろまでである富有柿などが栽培され、より多くの消費者ニーズに応えています。



イチゴの栽培と販売

綾川町は、県内有数のイチゴの産地。11月から6月ごろまで、女峰やさぬきひめ、さちのかなどが栽培されています。季節の産直や春のイベントなどでは、摘み立てのイチゴが並びます。



仕合わせコラム

綾川花卉園生産組合

町内では多くの花卉生産も行われ、ハウスの中などで一年中美しい花を見ることが出来ます。その一つ農事組合法人「綾川花卉園生産組合」では、平成元年から若者を対象に就農支援も行い、新たな農業経営者を育てています。研修は花卉栽培の実務研修を中心に、栽培や経営に関する相談にも乗っています。高校生の農業体験を受け入れたのがきっかけで、小中学生の職場体験の場ともなり、校外学習や研修も行われています。

綾川町しあわせプロジェクト

うれしい 絆で創り あげる まち



【住民参画・コミュニティ・行財政など】

住民が集まり、話し合い、ふれあう住民自治の精神が、今後の社会において重要になってきます。綾川町ではそれを支える拠点となる自治公民館や自治集会所の整備だけでなく、自治会活動に対する支援も進め、住民が主体となるまちづくりへの支援を行っています。

こうした活動で住民同士の絆を深めるのはもちろんですが、姉妹都市交流や海外友好都市など、町外との交流も盛んに行っています。

綾川町を取り巻く環境は厳しいものがありますが、効率的な行財政運営に努め、上記の施策のみならず各施策を住民のニーズに合わせて進めていきます。

これらの情報は、広報あやがわ、町議会だより、ホームページにより住民へ発信しています。



自治会活動

同行（どうぎょう）と呼ばれる近隣組織などがあり、各地域で公民館を拠点に自治会活動が展開されています。そこでは、スポーツフェスティバルや清掃活動、季節行事などを共同で行っています。これが、綾川町の大切な活力です。



広報あやがわ



支所窓口

仕合わせコラム

綾川町婦人会

綾川町誕生に合わせ、それまでの歴史をふまえて設立された綾川町婦人会。町の歴史などを学ぶ史跡巡りや研修旅行、暮らしを豊かにする各種講座や講演会などを開催。また、子育て支援や下校時の子どもたちの安全を守る通学パトロール、社会福祉施設の慰問や在宅老人給食サービス、文化祭ではバザーなどの収益を社会福祉協議会に寄付するなど、各方面でのボランティア活動を担っています。また、食の安全安心の普及活動を行う食生活改善推進協議会や災害時にも活躍する日赤奉仕団にも参加しています。



国際交流

中国新楽市との友好都市縁組を平成7年（1995年）に締結。それ以来、親善交流団が行き来し、さまざまな方面で充実した交流を行っています。また、北海道の秩父別町とは姉妹町として、子どもたちの交流などが和やかに行われています。



綾川町ホームページ

<http://www.town.ayagawa.kagawa.jp/>



綾川町初代町長
藤井 賢

幸せづくり メッセージ

保健・福祉・医療の拠点づくり

平成の大合併で誕生した「綾川町」は、人口26,000人余りのまちとして出発しました。しかし、65歳以上の高齢者が占める割合は県平均を上回り、いよいよ超高齢化といわれる時代がやってきます。それはまた「健康」という2文字が、何より輝く時代といっても良いでしょう。町民みなさまのアンケート結果も、「健康で安心して暮らせるまち」を望む声が多くありました。そこで、綾川町では、「とかめ健康の里プロジェクト」を計画し、町の保健・福祉・医療の拠点づくりを進めています。具体的には、陶病院・えがお隣接地に介護老人保健施設を建設し、健康を支える町の機能をしっかりと充実させ、ここを健康づくりのネットワーク拠点として、先進的な健康施策を展開してまいります。近くには、運動公園や保育所、病院などもあり、世代を超えたイベントも開催できることでしよう。

健やかに生きがいを感じるまち

また、綾上診療所、いきいきセンターなど、地域の医療福祉の関係機関との連携を深め、町全体の健康ネットワークを構築し、住民一人ひとりの健康を守る綾川町をつくり上げたいと考えています。そうしたなかで、大切なのは町民のみなさまが、自主的、積極的に健康づくりに関心を持ち取り組んでくださることです。その応援体制を万全に整えるのが、行政の使命と考え、健康意識の普及活動はもちろん「食育」や「疾病予防」といった、健康を守る施策を展開してまいります。

しかし、体が元気であるだけでは幸福とは言えません。幾つになっても、誰もが生きがいを感じるまちであるこ

とへの取り組みも大切です。そこで、人々の生きがいづくりを支援するため、高齢者をはじめ多くの人々の知識や経験を、地域づくりや町の活性化に生かせる環境を整えてまいります。

安心して子育てができるまち

これからの社会は、少子化に対応することも大きな使命です。そこで、綾川町では、安心して子どもを産み、いきいきと育てることができる環境づくりを地道に進め





地方分権の時代といわれながら、財政面での厳しさを担い、
少子高齢化、環境問題と、難問山積の地方自治です。

しかし、今、必要なのは、笑顔で支え合う住民パワーと希望が持てる未来志向の施策。

これまでとは違い、縮小するところは縮小し、未来に向けて必要なものはしっかりと整備し、
次世代に渡り心豊かな笑顔の暮らしを守らなければなりません。

そのための未来に向けてのメッセージを伺いました。

てまいります。現在すでに、保育サービスや各種相談体制をはじめ、さまざまな子育て支援対策を実施していますが、保育ニーズが多様化するなか、より細やかな子育て支援を考えなければなりません。そこで、特別保育サービスを強化し、情報交換の場づくりを進め、就学前の保育と教育を行う幼保一元化への取り組みを検討しています。

まちづくりの根本は何と言っても「人づくり」です。まちの将来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するために、念仏踊りをはじめとする文化や、貴重な文化財

などを集めた資料館と図書館などを併設した生涯学習施設の整備も計画しています。こうした教育施設の整備によって、自分で考える力、感じとる心を身につけることができる教育環境を整えていきたいと考えています。また何よりも、ふるさと綾川町に誇りを感じ、地域に愛情を持つ人材を大切に育ててまいります。

協働パワーで創る綾川町の未来

ほかにも、観光や産業、生活基盤整備などなど、未来を見据えたさまざまな施策を展開してまいります。そのためには、行財政改革にも真剣に向き合わなければなりません。もちろん、ただ数を減らすというのではなく、質の高い人材を適材適所に配置することで、無駄のない行政運営を図りたいと考えています。最小の経費で最大の効果が得られるよう、あらゆる工夫を重ねたまちづくりを進めてまいります。これからは、何よりも地域の人々のマンパワーが必要です。協働の取り組みこそが、綾川町の未来を決定づける大切な活力。より透明性の高い行財政改革を行ってまいりますので、多くのご意見と力をいただいて、最高に住みよい豊かな綾川町を創ってまいります。







s h i a w a s e e v e n t



1月	消防出初め式
1月3日	成人式
1月25日	滝宮天満宮お初天神
2月下旬	町民綱引大会
3月上旬	綾川河川清掃
4月24日	うそかえ神事 献麺式
6月中旬	長柄ダムのユル抜き
6月下旬日曜日	主基斎田お田植えまつり
8月上旬	各校区夏祭り
8月25日	滝宮念仏踊 (国指定重要民俗文化財)
9月上旬	農業フェスタ
9月下旬	滝宮天満宮奉納相撲
10月町内各神社	秋祭り
10月中旬	綾山湖サイクルロードレース
11月中旬	町内各校区文化祭・コミュニティカレッジ綾川



綾川町町勢要覧

発行：綾川町
 企画制作：綾川町企画財政課
 発行日：平成20年3月
 印刷：株式会社アイコー印刷

写真協力：あゆみの会写真クラブ 牧野 光夫さん



綾川町 <http://www.town.ayagawa.kagawa.jp/>

〒761-2392 香川県綾歌郡綾川町滝宮299番地

TEL(087)876-1111(本庁総合案内/音声ガイド) FAX(087)876-3120